

ニューワイド教材ライブラリ 活用事例

掛川市立中央小学校 三輪直司校長先生 内山林太郎先生



▲「xSync Classroom」を使った授業のようす。

活用シーン

◆静岡県では以前からジグソー法を基盤にした研修を実施しています。GIGAスクール構想により、校内のICT環境整備やタブレット端末、学習ソフトの利用も進み、百科事典ソフトと授業支援ソフトを効果的に組み合わせることで、より協調学習の幅が広がりました（三輪校長）。

◆例えば、小5理科「流れる水の働き」を題材としたジグソー法では、まず、侵食や運搬、流れる速さ、といった調べるべきテーマを設定し、児童は自分が担当するテーマについて研究します（エキスパート学習）。ここでニューワイドを上手に使えると、例えば「かわのはたらき」や「しんしょく」といったキーワードで「流れる水の働き」に関する資料をいくつも見つけることができます。

しかし、見方・考え方のヒントなしに調べ学習を進められる児童は多くありません。そこで「xSync Classroom」を使い、エキスパート別に考えを深めるヒントを出します。見方・考え方を引き出したい班にのみヒントを出すという使い方もできるので、児童の課題解決が進むようなきっかけとなるヒントを出すようにしています（内山先生）。

掛川市立中央小学校では、益川弘如教授（聖心女子大学）を年間講師に招き「静岡前向き授業づくりネットワーク」とも連携して、「知識構成型ジグソー法」（以下、ジグソー法）を授業にとり入れています。

ジグソー法を実現するため、同校では学研の学習百科事典ソフト「ニューワイド教材ライブラリ」と単元学習に最適な「ニューコース学習システム」、テクノホライズン（株）の授業支援ソフト「xSync Classroom」を活用しています。

今回は、三輪校長と内山先生に学習ソフトと授業支援ソフトを活用した協調学習や授業法について、お話を伺いました。



▲ニューワイドの画面。青い文字はリンクがはられており、さらに深く調べていくこともできる。

知識構成型ジグソー法とは

協調学習法の一つ。
学習課題解決に向けて、解決の糸口を3～4つに分けてテーマを設定、テーマごとの学びを深めるエキスパート班と、それぞれが得た知識を統合して、課題解決を図るジグソー班をつくり、学びを深めるという学習方法。

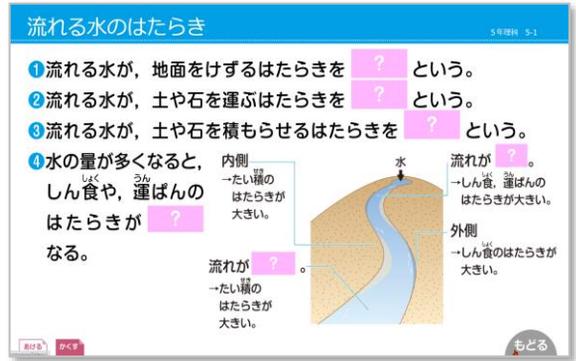


ジグソー法のアドバイスをいただいている益川教授

◆調べ学習の支えとなる前学年の学習内容の見直しも簡単にできます。例えばこの「流れる水の働き」は、小4の「水のすがたとゆくえ」の内容が土台になっているので、前学年の復習をしたい児童にはニューコースで、その範囲の振り返りをするよう伝えていきます。

◆調べ学習や交流学习の後には、授業のまとめとして「xSync Classroom」で他者の考えと自分の考えを比べて学びを深めたり、アンケート機能を使って、子どもたち自身の評価を聞き、次の授業に生かすようにしています。

さらに、ニューコースのドリルを宿題で出すことで定性的・定量的、2つの側面から期待した学びが子どもに起きていたのか理解度を確認できるのです（内山先生）。



▲短時間で前の学年の復習をするのに、ニューコースのカードを使っている

各アプリケーションのポイント

◆ニューワイドは、対話を通して調べ深めていく協調学習をカバーできる点が、この教材の強みだと思います。コンテンツ数が約30,000と豊富な点も評価しています。加えて、子どもたちは説明しなくても操作を覚えて使うことができている。このわかりやすい操作性も現場ではよい点です。

◆ニューコースの一番のポイントは「どの子にも優しい」ということです。できる子はどんどんドリル問題に取り組むことで学習成果を実感できるし、苦手な子は解説動画や要点整理カードといった丁寧な解説を頼りに、自分のペースで授業や学習内容を振り返ることができます。

クラスのみながいる前で、君は前の学年まで戻って勉強しよう、なんて先生は言えません。児童も言われたら恥ずかしい。ですが、その子の進捗にあわせて個別に宿題を配信できるのも、次の学びに向けた支えになる優しいポイントの1つですね。

宿題はもちろん、授業でも学習を深める教材として使えるのではないかと思います。さらに、視覚的理解を助ける動画などのコンテンツも多いニューワイドも一緒に使える、そんな学研のソフトの幅広さが気に入っています。



▲インタビューにご協力いただいた三輪直司校長（左）と内山林太郎先生（右）

◆また本校では、インターネット回線に負荷がかからない「xSync」を利用しています。アプリによっては、いざ全校で端末を使った授業をしようとしても回線に負荷がかかりすぎてとまってしまう、という事例も聞いています。やはり、第一は校内全クラスで快適に使える環境を整えることが大事です。

「xSync Classroom」は、インターネット回線を使用しないので、高速で操作も簡単で、全教室でストレスなく授業できます。また、クラウド版もあるので、自宅でのオンライン学習が進んでも心配ありません（三輪校長）。

インタビュー実施日：2022年02月09日
取材協力：株式会社高文、NEC静岡ビジネス株式会社、テクノホライゾン（株）